

## 週日の説教

金 大烈 神父 2011年1月14日(金)

### 《相応しい準備・配慮する心》

#### 主の平和

皆様、日曜日に、いわゆる主日のミサに与らなかつたら、それは赦しの秘跡の対象になるのでしょうか。子供の時にどのように教えてもいましたか？ 例えば、私は先週ミサに与らなかつた。特別な理由もなく緊急な用事もなかつたのに、自分が努力すれば頑張ればどうにかなつたのに与らなかつた。振り返ってみれば旅に出た時も、予め聖堂がどこにあるかちゃんと調べておけば、一番近い聖堂はどこにあるかすぐ分かつたのに、そのぐらいの労力も使わなかつた。そのような時、皆様はどうするように教えていただいたのですか？

面白い話をしましょうか。韓国の場合は平日のミサに与らなかつたと言って告解する人がいます。ですから私は逆に叱ります。「そんなことは罪ではありません！」と。しかし日本では、主日のミサ、大祝日のミサに与らなくても、それについては告解しません。ですから私が「ミサにちゃんと与っていますか？」とわざわざ聞くわけです。皆様はどう思われますか。「主日のミサ、一回ぐらい大丈夫だろう」と思っているらっしゃるでしょう。それでは二回、三回になったらどうでしょうか。一年の中で二回ぐらいしか与らなかつたら？ これは心の問題です。罪か罪ではないかの問題ではありません。私が一日、一週間、一か月、神様にどのくらい心を向けて生きているか振り返って見れば、罪の赦しを求めるべきかどうかはすぐに分かります。定められている規律や規則によって、「これは告解しなければならぬ」とか、そういうレベルは皆様乗り越えていらっしゃるでしょう。一週間、二週間、あるいは毎日ミサに与っても「私は忠実にミサに与ることが出来ませんでした。いつも心は雑念に囲まれていました。」と、そういうことを赦しの秘跡に求めることが望ましい姿です。

皆様、今日第一朗読で（ヘブライ人 4・1-5, 11）安息について、いわゆる主日について使徒パウロは話されています。何よりもお願いしたいことは子供達の教育です。今、お子様を連れてお母様達が結構いらっしゃいますが、その子供たちにミサの意味、何故私達が日曜日、遊びに出掛けなくて、このように家族と一緒にミサに与らなければいけないか教えて下さい。それが子供達にとっては一番大きなプレゼントになるかも知れません。そういう意識が私達みんなに必要なではないかと思えます。

皆様、「ミサに与らなかつたと言って赦しの秘跡にあずかること」これにはどういう意味があるのでしょうか。これは、「私はご聖体を頂くのに相応しい準備が出来ていません。」という告白です。「いつも私は自分のことばかり考えてあなたのことを軽んじてしまいました。」というへりくだる告解です。それを変に思う必要はありません。これは信仰の心、信仰の良心です。本当に数が大事なことなく、与った、与らなかつたの問題ではなく、それ以前に自分の心がどのくらい神様に向いていたかを振り返ってみたらいいのではないかと思えます。

さあ、今日の福音（マルコ2・1-12）に入りましょう。病人の友がどうにかしてイエス様に病人を見てもらいたくて、しかし大勢の人が集まっていたので良い方法がなく、『屋根をはがして穴をあけ、病人の寝ている床をつり降ろした。』と聖書は述べています。昨年も申し上げたと思いますが、皆様が群衆。そしてある日突然、誰かが床に休んでいる病気の人をそのままの状態ですべて連れて来て、家の中に入れなから、屋根をはがして穴をあけ、つり降ろした姿を見たら皆様はどう思われるでしょうか。

「何なのこの人達」と思うでしょう。自分達は何時間も前から待っていたのに、色々な不便さを感じながらもちゃんと待っていたのに、「あの人達は自分達のことばかり考えて、屋根さえ壊して穴をあけて病人を運ぶなんて！」と腹を立てるでしょう。腹を立てて、はっきりと怒った顔を見せると思いますが、こういう場合でなくても、まったく自分に関係なく距離のあることでも、私達はすぐ腹を立てた顔を見せています。しかもイエス様はその人を癒して下さって、そして四人のことを褒めたわけです。

イエス様が私達に話していらっしゃるの「あなた方は求めるものが何であるかはっきり分かってほしい。」ということでしょう。私達はどうか。色々な知らないことに心を奪われて、本当に信仰的に必要なものはいつも過ぎてしまう。自分の靈魂の救いのために必要なことを、軽んじてしまうことがあるのではないのでしょうか。そういうことを考えてみたら、またそういうところまで行くレベルであつたら、色々な小さいどうしようもないことに心痛めたり、人を憎んだりすることから解放されるのではないかと思います

さあ、最後にこの四人の心、友としての心が私達にも必要ではないでしょうか。少しでも手を差し伸べてみると、余裕を持って見回してみると、本当に沢山の助けを求める人々がおります。自分のことばかり考えて、他の人に余裕を持ってないのは、結果的に自分にも余裕がないことを意味します。人の痛みを見ながら、人の不便さを見ながら、私達は感謝するところもあります。人の色々なことを見ながら、気の毒な姿を見ながら自分がどうすれば愛を体験するかが分かります。皆様この四人の友のように、家族のために、そして、いつも関わっている人のために、私達はどの位気を配っているのか考えてみましょう。

ありがとうございました。